

The History

Since 1925



新潟県指定自動車教習所

新潟関屋自動車学校

新潟で最も歴史がある自動車学校として ドライバーを育成し続けて90年



初代 綿井 兵吉



戦前から戦時中にかけて教習車として活躍した1929年製のシボレー

我社は大正14年に創業し
ご縁ある皆さまに支えていただきながら
これまで歩んでまいりました。
その90年の道のりは、必ずしも
平坦なものではありませんでした。
とりわけ、創業期は
厳しい時代であったと言えます。

我が社が今、存在しているのは
初代 綿井兵吉と指導員たちが
危機的状況と未来への希望のはざままで
幾多の苦難を乗り越え
新しい道を切り拓いてくれたからです。

私たちは今一度、創業の原点に立ち返り
先人たちが築いた
SEKIYAスピリットを心に刻み
気持ちを新たに
未来に向かって力強く歩みを進めてまいります。

上等な乗り心地と格好良さに 魅せられた自動車との出会い

我社は新潟県内に現存する最も歴史ある自動車練習所として、大正14年に創業しました。設立したのは綿井兵吉（ひょうきち）。現社長・綿井伸行の祖父にあたります。

兵吉は明治28年、7人きょうだいの6番目として、石川県羽咋郡栗ノ保村（現羽咋市）で生を受けました。東京の船員養成所を卒業した後、兵吉は船乗りになり、新潟ーロシア・ウラジオストクの貨物船や中国・大連ー青島の客船などで船長を務めます。新潟との縁は兵吉を乗せた船が新潟港に初入港したのがきっかけ。新潟の街の印象が良かったことから定住を決めました。

さて、兵吉がなぜ自動車関係の仕事に就こうと思ったのか――。それは、船の仕事で横浜の浅野造船所に何った時、大正時代までさかのぼります。兼ねてから運転手という職業に興味を持っていた兵吉は、「先様から「国技館に夏場所を観に行かんか？」と誘われ、生まれて初めて自動車に乗せてもらいます。黒塗りのクライスラーの上等な乗り心地と格好良さにたちまち魅せられた兵吉は、その感動と興奮から新潟に戻るや否や自動車関係の仕事をしようにと準備を始めます。

当時、自動車を所有していたのは外国の



大正時代の榎谷小路（新潟市所蔵）

大使館や中央官庁、大財閥、華族などに限られており、お抱え運転手は特殊技能者として「運転士」と呼ばれる花形の職業でした。運転士の出で立ちにはシルクハットにフロックコート、白い手袋をしてハンドルを握るといのが相場。兵吉は「今でこそ猫もしゃくしもハンドルを握るご時世で、運転手はごく当たり前の職業になっておりますが、私が運転免許を取った頃はまだまだ希少価値が残っており、当今のジェット旅客機のパイロットくらいの格好良さがありましたか」と後に当時を振り返っています。

大正14年にハイヤー・バス会社と 自動車練習所を立て続けに設立

兵吉は自動車練習所に通い始めるという免許を取らないうちから、東京でシトロエンを1300円で購入。さらに免許取得後にシボレーとマックスウェルを1台ずつ購入し、大正14年にハイヤー・バス会社「綿井自動車商会」を新潟市内に設立します。当時は1000円あれば土地付きの立派なマイホームが建てられた時代。自動車はとても高価なものでした。会社は佐渡汽船ー白山駅ー新潟駅ー中央埠頭の路線の権利を取得し、最盛期には17台

昭和初期には既に 1000名以上の 免許取得者を輩出

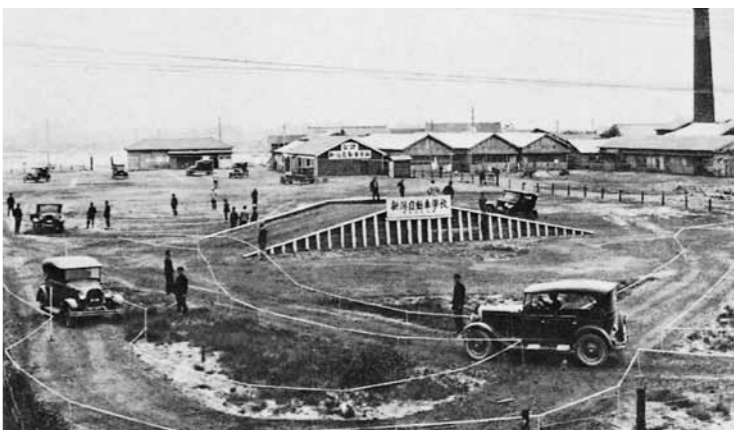
綿井自動車練習所は旧新潟競馬場からほど近い新潟市関屋金鉢山の松林に建てられました。松林の中にある林間教習コースが特長で、全国的にも珍しかったようです。



松林の中につった教習コース

昭和12年頃の記録によると、当時の学費は2カ月で卒業する本科の場合、入学金3円、授業料70円、教科書代が約5円でした。新潟県内はもちろん隣県などから多数入学者が訪れ、昭和初期には既に1000名以上もの免許取得者を輩出していました。兵吉は面倒見の良い性格で、自宅の2階を教習生の寄宿舎にし、兵吉の家族と練習生は一緒に食卓を囲んでいたと言います。

※1~4ページの内容は、新潟日報（昭和41年8月3日、昭和50年11月11日・18日・25日・12月2日、平成26年1月12日・19日）の記事を参考に作成したものです。



練習車はT型フォード。縄を張ったコースで教習をした(『交通警察二十年のあゆみ』より)

創業当時、新潟ではその少し前、大正14年6月から、現在の新潟トヨタさんが「新潟自動車商会」という社名で自動車練習所を運営していました。新潟自動車商会さんはシボレーの代理店もやっておられ、自動車を売るならまず運転を教えるからという想いから学校を運営しておられたのです。我社は縁あって、その新潟自動車商会さんが設立した自動車練習所と昭和7年に合併し、現在地に移転しました。現在でも創業時からの縁で、教習車はそのほとんどがトヨタ車を採用しています。

戦時中、中古部品を寄せ集め 県産第一号の自動車を作作する

昭和初期、我社も戦争のあおりを受け、非常に厳しい時代を迎えます。昭和11年の自動車製造事業法の公布以来、それまで日本フォード、日本GMの圧倒的な支配が続いていましたが、外国企業に対する営業規模の制限や輸入関税の引上げによって、その支配力は低下。同時に軍や民間の自動車需要を国産車で満たそうと、国産化体制の確立を急ぎました。しかし、資材不足の深刻化は避けられず、一般向けの国産車の製造は麻痺状態が続きます。

当時は国産車が製造されてもそのほとんどが戦地向けで、次々に訪れる入学者のた



多くの運転手を育てた新潟県産第一号の車

めの教習車の増車が追いつきません。いよいよ教習車が不足して切羽詰まった兵吉は、有り金を体に巻きつけて上京し、東京中を東奔西走して中古部品を買い集めます。あの時は重さが何十キロもあるシリンドラーを野駅に向かったと言います。兵吉が「足りない練習車は組み立てて間に合わせよう」ということになりました。毎週土曜日の午後の実習時間を練習車組み立て時間に当てたんです。廃車になった車の部品を集めてきて何週間もかかっちゃって作りました」と話すその教習車は、自ら旋盤を使って部品を削り、しまいは鍛冶場をつくってフィゴを動かして作ったもの。昭和14年にできた新潟県産第一号の車です。「当時は独創的な新車として活躍、たくさんの運転手を養成した価値ある車なんです。私が手を取って指導した運転手さんは何千、何万人でしょうね。一人ひとりになつかしい思い出がありますが、練習車を組み立てていた頃が「際思い出深いですよ」と生前、語っていた兵吉。プルプルと車体を震わせながら人間の駆け足くらいの速さで走るような車でしたが、教習車不足を大いにカバーしてくれました。

車と燃料が不足するなかで 数々の苦難に立ち向かう

戦火の波はハイヤー・バスの事業にも影響を及ぼし、戦況が深刻になると企業統合によって新潟タクシーさんに移譲することになります。一方、自動車練習所は、運転手の育成に追われる日々が続きます。運転手がひっ迫しているのか新発田連隊から毎月のように「今月は〇〇人卒業させよ」と言われ、県内のバス会社からは徴兵で運転手が不足し、女性の車掌を運転手にしようと多くの養成を委託されました。

教習車が不足している中で、次々と育てなくてはならない運転手。そこに追い打ちをかけるように燃料不足の波が襲います。昭和13年には自動車のガソリンが切符制になり、「ガソリン1滴は血の1滴」という標語が登場。やがて昭和16年には石油燃料の使用が禁止され、木炭ガスが代替燃料として用いられるようになります。その後、炭が統制品になると、今度は燃料をまきに替える。コークスやカーバイドも燃料にしようとして挑戦しましたが、すぐに人手でできなくなりました。いよいよ切迫した状況に追い込まれ、途方に暮れていた矢先、幸運にも昭和18年頃、新潟県で天然ガスが産出されました。他県はまきを使って四苦八苦していましたが、新潟県と千葉県だけはかえって楽になったと言います。

創業期を支えた兵吉の 果敢な行動力とチャレンジ精神

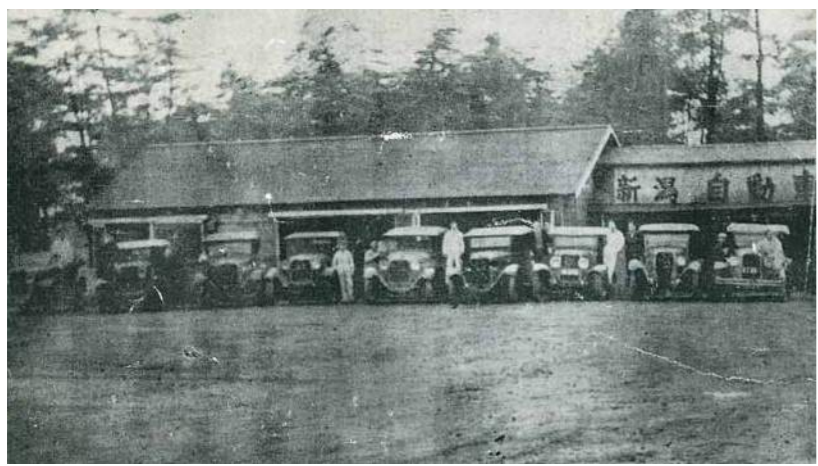
運転手にあこがれ、自動車の世界に飛び込んだ兵吉。その生涯は、苦難を目の前にしても決してひるむことなく、旺盛な行動力とチャレンジ精神をもつてつねに新しい道を切り拓いていった人生だったと言えます。外車3台を購入して始めたハイヤー・タクシー業は、昼間は妻に仕事を任せ、自らは自動車練習所の校長兼指導員を、夜はハイヤー運転手として忙しく働き続けました。「夜、営業が終わると今夜はもうお客がないだろうとラジエーターの水を抜かせます。不凍液などない時代で、それをやらないと冬は水が凍ってエンジンが破裂してしまふ。そんな時に限ってチリチリと真夜中に電話が鳴り、『綿井さん？ すまないけれど、××家にすぐ一台出してよ』なんて注文。『それ、また水を入れる』といった騒ぎの繰り返し。後に「一台だけは水を抜かず、そのままでは水が凍ってしまうので、2時間おきくらいに夜ついでエンジンをかけていたとは、苦勞なことでしたわ」というエピソードが物語るように、今では考えられないほど車に手がかかりました。また、当時の自動車は故障が多く、3万数千キロも走ればエンジンから車体まで徹底的に分解して修理しなければならず、兵吉は数千個におよぶエンジン部品のひとつひとつに荷札を括り付けて部品を覚え、独学で修理していたという勉強熱心な人物で

した。80歳を過ぎても毎朝出勤し、講義をしたり、スタッフの指導にあたり、晩年まで仕事に励んでいたと言います。

厳しい時代にあっても、苦難に果敢に立ち向かい、社会から求められることに柔軟に対応してきた創業者・綿井兵吉の仕事に対する姿勢は、私たちの目指すべき姿であり、我社の誇りです。創業から90年経った今でもその精神は脈々と受け継がれ、現在の新潟関屋自動車学校の中に息づいています。



教習生との記念写真。戦時には、多くの女性をバスの運転手として養成した



戦前、戦中の教習車はシボレーやフォードなどの輸入車10数台を揃えるその教習車は多くの人の羨望の的だった

まだ車が珍しかった創業時は、人々が羨望のまなざしで見っていた教習車。戦時には県産初の車を製造、時代は変わって平成にはBMWを導入するなど、私たちは、つねに時代の先をゆく教習車を求めてきました。

戦前、戦時には米国製のシボレーが教習車として長らく活躍した。昭和初期にはすでに1,000人以上の免許取得者を輩出しており、その多くがこの教習車で練習していた。

昭和10年頃



シボレー1929年型

昭和14年頃



新潟県産車第一号自社製造車

スクラップ車の部品を集めて組み立てた教習車。車の製造がマヒし自動車学校の教習車が不足している状況にあって、この奇抜な車が大いに活躍した。



輸入車

年代不明



トヨペット クラウン・セドリック

昭和30年頃



トヨペット クラウン

昭和30年頃



日産 セドリック(初代)

昭和35年



トヨタ クラウン(4代目)

昭和47年



トヨタ クラウン

昭和55年頃



トヨタ クレスタ

平成元年頃

若者に人気がある車で差別化を図ろうと、教習車にドイツ製高級車BMWを約20台導入。全国的な話題となり、指導員が4倍の80人に増えた。



BMW

平成4年～



BMW

平成24年6月～



トヨタ カローラ アクシオ

教習車をすべて国産車に切り替え、再びトヨタ車を導入。運転しやすく、安全性も確保されている「カローラ アクシオ」は、教習車としても高い人気を誇る。

二輪教習車

平成9年頃



平成26年



送迎バス



新潟大学方面や古町方面への無料スクールバスの他、より通学しやすいようにスマートフォンからの予約による自宅などへの個別送迎を実施し、サービスの向上を図る。

新潟関屋自動車学校の歴史

大正 14年 11月
(1925)
綿井自動車練習所開設

昭和 7年
(1932)
新潟自動車学校と改称 現在地に移転



昭和15年 第1期卒業記念



当時のコースの一部

新潟関屋自動車学校と改称

新潟県公安委員会指定(第24号)
指定車種 大型自動車及び普通自動車
大型特殊自動車 追加指定

新校舎完成(鉄筋コンクリート3階、一部4階、延べ1112.47平方メートル)
大型、大特の教習(検定)廃止

初心運転者講習開始

二階「二輪専用コース」竣工
普通自動車二輪車追加指定



県内初の二階建て教習コース採用



平成8年6月には大型二輪オーデションを実施。この頃からの取り組みが、現在の卒業生県内断トツ1位の実績につながっている。

平成 3年 5月
(1991)
優秀校表彰 県警本部長 県協会長
優良教習所表彰 管区局長 関東連合会長連名
社員食堂及び教習生宿舎
(ファースト・ドム)完成
宿泊開始
平成 5年 7月
(1993)
宿泊施設(セカンド・ドム)宿泊開始
教習車にBMWを導入 教習開始
平成 9年 2月
(1997)
大型自動二輪車指定 教習開始
平成 10年 12月
(1998)
高齢者講習開始
平成 12年 5月
(2000)
運転免許取得者教育実施校として認定
旅客自動車教習指定
平成 14年 12月
(2002)
普通自動車第二種指定
AT二輪教習・13時限教習開始
宿泊施設(サード・ドム)宿泊開始
平成 17年 6月
(2005)
宿泊施設(セカンド・ドム)廃止
平成 19年 3月
(2007)
宿泊施設「サード・ドム」を「レディース・ドム」に改称
優秀校表彰 県警本部長・県協会長
優秀校表彰 関東管区警察局長・関東指連会長
優秀校表彰 全指連会長
平成 24年 6月
(2012)
教習車をカローラアクシオに代替
平成 26年 10月
(2014)
新潟県知事により、県内自動車学校で初めて「経営革新企業」として承認を受ける
(内容:バスキャッチを活用した、教習生のための個別送迎システムの構築)

平成	昭和	大正
平成 26年(2014)	昭和 52年(1977)	大正 13年(1914)
平成 24年(2012)	昭和 53年(1978)	大正 11年(1922)
平成 23年(2011)	昭和 54年(1979)	大正 10年(1921)
平成 21年(2009)	昭和 55年(1980)	大正 9年(1920)
平成 20年(2008)	昭和 56年(1981)	大正 8年(1919)
平成 19年(2007)	昭和 57年(1982)	大正 7年(1918)
平成 18年(2006)	昭和 58年(1983)	大正 6年(1917)
平成 17年(2005)	昭和 59年(1984)	大正 5年(1916)
平成 16年(2004)	昭和 60年(1985)	大正 4年(1915)
平成 15年(2003)	昭和 61年(1986)	大正 3年(1914)
平成 14年(2002)	昭和 62年(1987)	大正 2年(1913)
平成 13年(2001)	昭和 63年(1988)	大正 1年(1912)
平成 12年(2000)	昭和 64年(1989)	大正 0年(1911)
平成 11年(1999)	昭和 65年(1990)	
平成 10年(1998)	昭和 66年(1991)	
平成 9年(1997)	昭和 67年(1992)	
平成 8年(1996)	昭和 68年(1993)	
平成 7年(1995)	昭和 69年(1994)	
平成 6年(1994)	昭和 70年(1995)	
平成 5年(1993)	昭和 71年(1996)	
平成 4年(1992)	昭和 72年(1997)	
平成 3年(1991)	昭和 73年(1998)	
平成 2年(1990)	昭和 74年(1999)	
平成 1年(1989)	昭和 75年(2000)	
	昭和 76年(2001)	
	昭和 77年(2002)	
	昭和 78年(2003)	
	昭和 79年(2004)	
	昭和 80年(2005)	
	昭和 81年(2006)	
	昭和 82年(2007)	
	昭和 83年(2008)	
	昭和 84年(2009)	
	昭和 85年(2010)	
	昭和 86年(2011)	
	昭和 87年(2012)	
	昭和 88年(2013)	
	昭和 89年(2014)	
	昭和 90年(2015)	
	昭和 91年(2016)	
	昭和 92年(2017)	
	昭和 93年(2018)	
	昭和 94年(2019)	
	昭和 95年(2020)	
	昭和 96年(2021)	
	昭和 97年(2022)	
	昭和 98年(2023)	
	昭和 99年(2024)	
	昭和 100年(2025)	

免許証の変遷



【鑑札】
(最初の運転免許証)
明治36年8月20日、愛知県で日本で最初の交通法令「乗合自動車営業取締規則」(県令第61号)が制定施行され、「鑑札の携帯、提示義務」が定められる。鑑札の交付対象は、乗合自動車の運転手のみだった。



【自動車就業免許証】
昭和8年11月1日、自動車取締令が全面改正(内務省令第23号)になり、免許の種類が普通、特殊、小型、仮免許および就業免許(現在の第二種免許に該当)の5種類になる。



【自動車運転免許証(小型免許)】
昭和13年11月、自動車取締令の一部改正により、免許の更新制度が採用される。それにより従来5年で失効した免許が、5年毎の期間満了後3ヶ月以内に更新審査を受けるようになる。



【自動車運転免許証(特殊免許)】
昭和15年5月1日交付



【戦後の免許証】
終戦後、文章が横書き形式になったために採用された手帳型横書き免許証。



【原動機付自転車運転免許証】
昭和27年8月1日、道路交通取締令(総理府令第40号)の改正により、原付の運転許可制度が設けられる。それにより14才以上は審査のみで3年間有効許可証が交付されるようになる。



【折タタミ式免許証】
昭和28年8月31日、道路交通取締法施行令(政令第26号)により、免許証の有効期間が3年となる。



【国際運転免許証】
昭和39年9月1日、道路交通に関する条約(ジュネーブ条約)(法律第91号)に加盟し、国際運転免許証が発行されるようになる。



【ビニール製二折り免許証】
昭和42年6月1日、道路交通法施行規則が一部改正(総理府令第41号)になり、ビニール製の二折り免許証となる。



【写真免許証】
昭和48年10月1日、道路交通法施行令の一部改正(政令第29号)により写真がカラーになる。この年より有効期限に誕生日が導入される。



【優良運転者免許証】
平成6年5月10日の道路交通法改正により、「優良運転者」で「優良運転者講習」対象者に免許証の有効期限記載欄が金帯で表記され、黒枠で「優良」の文字が付記される通称「ゴールド免許」が交付されるようになる。

写真で振り返る 私たちのステージ

旧新潟競馬場の近く、
関屋金鉢山の松林に校舎を建てたのが大正14年。
新潟市の中心部・繁華街とも非常に近く、
日本海もすぐそばという周辺環境にも恵まれ、
90年近くに渡って新潟市の発展と共に、
私たちが進化成長してきました。

【教習コースの変遷】



昭和40年頃



昭和初期(『交通警察二十年のあゆみ』より)



昭和60年



昭和30年頃



平成26年



昭和39年6月 新潟地震直後の教習コース



昭和62年



平成2年



昭和30年



昭和40年



平成26年



昭和60年頃

安心・安全を追求した施設

入校される方の安心・安全を守るため、
 教習時間内はもちろんのこと、
 学校寮では24時間スタッフが常駐するなど
 万全なセキュリティ体制を整えています。



「専用レストラン」を完備し、学校寮での滞在期間中は新潟ならではの手作りのメニューを提供



教習コースはのびのびと練習でき、運転のコツも早くつかめる「2階建てコース」を採用



教習の合間にも気軽に行き来できる学校から徒歩4分の「学校寮」



寮の室内はテレビ・DVDプレーヤー・有線放送440ch・インターネット光回線など設備も充実



「運転シミュレータ」を複数台用意し、限られた時間のなかで理解度を高める教習を実施



女性グループ専用の「学校寮」も完備



落ち着いた空間で車の運転に関する知識を深める「教室」



スタッフが考える 弊社の価値・魅力・これからの夢

これまで存続してこれた源にある
弊社の価値を見つめ直し、
100周年に向かって
新たな一步を踏み出します。

弊社の魅力は、一家一台から一人一台の時代
へ車の需要が拡大していく中で、常に免許取得
希望者の期待に応えてきた親切的な教習にあると
思います。

私は自分が関わった人達にはずっと無事故で
いて欲しいと思っています。そして、事故のな
い安心、安全な自動車社会の実現に貢献してい
きたいです。

今後も多くの人達に支持されるようがんばり
ます。



●指導部 教習指導員 大宮雪音 (平成24年入社)

入社当時から「関屋は厳しいがあの教習所を
卒業すれば事故をおこさない」とよく聞きました。
すでに私は24年近く教習業務を行っていま
すが、そのスピリットは各指導員に継承されて
いると思います。それが弊社の最大の価値、存
続の要因ではないでしょうか。
お客様の目線で個々に理解される教習を行う
ことが私の永遠のテーマです。障害をお持ちの
方でも不安なく安全運転を身に付けていただけ
るよう努めていきたいです。
今も毎日が勉強です。今後も高い評価が得られ
るように努力してまいります。



●指導部 係長 齊藤浩美 (平成2年入社)

弊社がこれまで歩んでこれたのは、常に新し
い事にチャレンジし、他社が真似できないサー
ビスを行ってきたからだと思っています。二輪専用
コースがあるのも新潟県では弊社だけです。二
輪免許だけでなく、二輪のテクニックを身に付
けたい方におすすめです。
私は、本免許学科試験合格率県下No.1！
そして、法令を理解した安全運転者の育成の
ために力を注いでいきたいと考えています。
これからも皆さんに愛される自動車学校であり
続けられる様がんばります！



●指導部 学科教習課長 斎藤秀明 (平成11年入社)

その昔、教習所の指導員は先生
様であり、鬼軍曹のような存在で
した。その考え方を改め、お客様
第一主義に徹するサービス業と
しての教習所へと、全職員の意識
改革をしたことが今まで存続で
きた理由だと思います。
今、私が出来る事は、担当職員と
協力して学科試験合格率の更なる
向上と、地域の交通安全センター
としてわかりやすい自転車教習を
行い社会貢献することです。

●指導部 主任 渡部直樹 (平成12年入社)



弊社が長い歴史の中で社会に貢
献してこれたのは、創業からずつ
と続いてきた信頼と実績があった
からです。私は社内でのコミュニ
ケーションの良さがその実績に関
係していると感じています。

弊社は上司との距離が近く、些
細な相談でも話がしやすいので、
教習の意思疎通がしつかり行えま
す。その良い連携が実績に繋がっ
ていると思います。

まずは一人前と言われるように
なり、会社の一端を担う者として、
記念すべき100周年に向けて奮
闘していきたいです。



●指導部 教習指導員 本間 悟 (平成24年入社)

よく「関屋は厳しい」と言わ
れますが、その教習の厳しさは
事故率の低さ、本免許学科試験
の合格率の高さに表れています。
この結果にお客様が納得され、
弊社への支持につながっている
のだと思います。
私は弊社が、後世に残る企業で
あり続ける為に、これからも業務
内容の改善と充実を図っていきたく
と考えています。そして、親か
ら子、子から孫へと数世代に渡つ
て入校くださる方への安全指導を
はじめ、初心運転者教育や企業研
修などを通じて、一生無事故の車
社会に貢献してまいります。

●指導部 部長 梨本正利 (昭和54年入社)



弊社の魅力は、常に時代・業界
の流れや若い世代のニーズを的確
にとらえ、顧客に満足して頂く
サービスを提供し続けてきたこと
ろだと思っています。
近隣地域の皆様のあたたかいお
心遣い、自動車等の資材を納品・
納入してくださる業者様のお陰
で、90年という節目を迎えること
ができて感謝致します。

私は社員の幸福度が、組織（会
社）に貢献する意欲につながる
と考えています。今後は男性も含め
た育児休暇取得等福利厚生を更に
充実させ、一人ひとりの意識向上
に役立つ仕組みを構築していきたく
いです。

●指導部 係長 田浦一輝 (平成12年入社)





代表取締役社長 綿井 伸行

居心地のよさを徹底的に追求した サービス業としての自動車学校を目指します

家業が自動車学校ということもあり、車は幼いころから身近な存在でした。祖父に可愛がられていた私にとって車はおもちゃのようなもので、運転好きな性は創業者譲りのようです。自分が好きな車を仕事にでき、自動車学校で多くの人に車について伝えられるというのはとても幸せなことだと感じています。

まったく別の業界から家業の経営を引き継ぐために新潟に戻ってきたのは昭和56年のことです。それから30数年の間、時代の変化を見えながら、与えられた環境の中で様々なことに挑戦してきました。教習生がより通いやすくなるように、当時どの

自動車学校も休みだった土日やお盆も開校に踏み切ったり、県下初の2階建てコースの建設、車に興味がある若者に人気のBMWに全教習車を一新するなど、差別化という視点を持って経営にあたってきました。数ある取り組みの中でも、県外の方を対象にした合宿教習の強化は、大きな実績を生み、現在も力を入れている部分です。

少子化の影響は自動車学校の経営に直結します。そこで「新潟を合宿教習のメッカにしよう」と発案し、平成7年に新潟指定自動車教習所協同組合を立ち上げ、同じ悩みを持つ新潟県内の自動車学校に声を掛けました。最初は経営者同士の集まりだった

た組合も、サービス面、教育面、経営面などを学び合い、気持ちを高め合い、切磋琢磨する場となり、校長同士、指導員同士など同じ職種の横のつながりも生まれ、組合全体の質の向上に結びついています。

私は当校に通ってくださる方々には、つねに「居心地の良さ」を感じてほしいと思っています。そのために講習や実習の時はもちろん、受付の対応、手続きのしやすさ、学校寮の清潔さなどあらゆるところに目を配り、お客様目線に立ったサービス業に徹したいと考えています。そして、新潟関屋自動車学校で心地よく過ごしていただく中で、ドライバーとしての知識、技術、心構えをしつ

かりと学んでいただき、卒業生を社会に送り出したいと思っています。

運転できるようになることは、行動範囲をグンと広げ、その人の世界が広がっていくことにつながります。車の免許を取得することで、卒業生二人ひとりが幸せな人生を歩んでいただけたら、自動車教習業冥利に尽きます。私はそこに大きな生きがいを感じています。

私にとって入校いただく教習生は我が子のような存在です。これからも親心を持って教習生を温かく見守り、それぞれが大きく羽ばたいていくことを願って、自動車教習業に邁進してまいります。

社会の変化に柔軟に対応し 親切でいねいな指導を徹底します

弊社の最大の魅力は創業から貫いて社会の変化に柔軟に対応し、マーケティング戦略を軸にした経営を実践してきたところ。私はこの度の節目を機に、創業者の生みの苦しみ、それに続いた先人たちの苦難を乗り越えた歴史に想いを馳せ、激動の時代に向かつてしなやかに躍進を続けたいと誓いを立てました。

自動車のIT化の進展により、安全運転システムが進化していくことに伴い、これから教習カリキュラムも変わっていきます。このような時代の変化にも柔軟に対応しながら、今後も指導員たちに親切でいねいな教え方と挨拶を徹底してまいります。それによって教習生が増える、利益を出す、従業員が安心して仕事に打ちこめる、笑顔で教習生と



校長 須貝 恵吉

接するという循環を生み、その結果として安全な交通社会に寄与すると共に、社会に利益を還元する企業を目指します。

サービス業としての教習環境をつくり お客様のニーズに応えます

私が入社した頃は職員も20名程度で家族的な会社でした。それから40数年の間に、二輪専用コース建設、合宿教習の開始、全教習車BMWに代替、教習システムのIT化等、一早くお客様のニーズに合ったサービス業としての教習環境作りを実施してきました。その影で職員たちは新潟地震後の復興、各種指定に向けた取り組み、全職員研修による

意識改革と資質向上など、努力を積み重ねてきました。顧客満足100%を目指すことへの実践は、現在の教習生数や全国からの注目度に表われていると思います。これまで初代社長をはじめ二代目、三代目社長、そして指定を受けてから7人の校長のもとで指導を受け、40数年に渡って職員たちと一緒に仕事ができただことに感謝してい



副校長 山崎 幸人

ます。これから新校舎の建設に向けて尽力してまいります。



【学校概要】

名 称:新潟関屋自動車学校
所 在 地 住 所:〒951-8166 新潟市中央区関屋浜松町22
(JR関屋駅より徒歩2分)
電 話 番 号:025-265-0101
職 員 数:指導員68名、事務員9名、その他24名
校 舎 仕 様:4階建て
敷 地 面 積:12,000㎡ コース面積:14,000㎡
教習免許の種類:普通(AT・MT・二種)、二輪(小型・普通・大型)

幾多の苦難に遭遇しながらも

一世紀近くに渡って脈々と受け継がれてきた

『SEKIYAスピリット』は

今も確実に我社の中に息づいています。

先人たちへの感謝の気持ちを胸に

これからも永続的に発展成長し

さらに社会に貢献できる企業になれるよう

企業理念に照らした行動によって

その実現を目指してまいります。

企業理念

安全かつ安心社会の確立

自動車教習サービスを通じて、交通事故による
悲劇を繰り返さない安全かつ安心な社会の確立に寄与する。

働き甲斐と夢、家族のしあわせ

従業員に対し、「働き甲斐」と「夢」のある職場を提供し、
従業員とその家族がしあわせな生活を送ることができるよう
全力を尽くす。

地域交通安全センター、地域貢献

地域の交通安全センターとしての使命を自覚し、
交通安全教育活動を通じて、
地域への貢献活動を積極的に行う。



当社が昭和14年に製造したこの車は、新潟県産第一号となりました。

Next Stage...

私たちはこれからも熱意と勇気をもって、
つねに新しい“新潟関屋自動車学校”を創っていきます。



〒951-8166 新潟市中央区関屋浜松町22番地

TEL (025)265-0101(代) FAX (025)265-0707 URL sekiyads.co.jp

表紙の模型は創業期の写真(1ページに掲載)をもとに当時の教習車を再現したものです。(製作者:SHUN1/24氏)